

クントウル・ワシ遺跡出土の土器資料

井口 欣也（埼玉大学）

1. クントウル・ワシ遺跡出土土器資料の概要

クントウル・ワシ遺跡発掘調査の過程では、大量の土器資料を得ることができた。1988年から2002年に至る合計12シーズンで出土した土器は、登録の単位とした布製の袋（約25cm×30cm）の数にして、29932におよぶ。その大部分は破片であるが、墓の副葬品として出土したものを中心に、およそ100点の完形もしくは完形に近い土器も出土した。

発掘調査において、土器資料はその他の遺物と同じように出土した地点・層位ごとに収集、登録し、これを基本的な分析の単位とした。出土地点は発掘の単位とした2m×5mの発掘区名称によって記録した。発掘区に加え、出土地点が壁などの遺構との位置関係によって特徴づけられる場合には、その内容も地点情報に加えた。出土層位は、発掘担当者によって管理された自然層位で示した。墓やカナルなど特定の遺構の内部から出土した場合には、層位に加え、その遺構の名称と出土状況の情報を登録した。出土した土器資料は前述の布製袋に収納され、その袋に貼付された札に日付、地点、層位の情報を記した。同時に土器が収集された袋には、年度と遺跡の略号（1988年＝8KW、1989年＝9KW、1990年＝90KW、1993年＝3KW、1994年＝4KW、1996年＝6KW、1997年＝7KW、1998年＝98KW、1999年＝99KW、2000年＝00KW、2001年＝01KW、2002年＝02KW）を冠した固有の通し番号を与えた。こうして与えられた、例えば「4KW-256」という番号を土器の「登録番号」とした。発掘の区域が格段に広がった1997年以降においては、資料整理の観点から、固有番号の前に発掘区の記号をつけることにした。したがって、たとえば1998年のA区から出土した、ある土器資料の袋には「98KW-A354」という登録番号が与えられている。

この袋のなかに収集された土器片の一点一点は洗浄し、その後土器そのものに登録番号を注記した。さらに土器台帳には、登録番号順に、日付、地点、層位の情報を記録した。したがって土器台帳を参照すれば、土器資料にふられた登録番号によって出土状況の情報を得ることができる。たとえば、98KW-A354と注記された土器片は、土器台帳を参照することによって、1998年8月31日にA7O18の発掘区の第8層から出土した、という情報を得ることができるようになっている。今回の報告でも、付録DVDに納めた土器資料の図面や写真にも登録番号を付し、出土情報と対照できるようにした。

冒頭に述べたように、クントウル・ワシ遺跡から出土した土器資料は膨大な量になったため、調査終了後も永続的に良好な条件のもとで保管するためにどうしたらよいかということが重要な課題となった。そこで、ペルー文化庁の許可を受け、土器資料の大部分をクントウル・ワシ村にある研究棟敷地内の地中に埋納することにした。埋納にあたっては、土器資料のはいった袋をさらに大きな耐水性のある袋へとまとめた。この大袋の数は1600に及んだ。先にも述べたように、埋められた土器資料にはすべて登録番号が注記されているため、発掘年、出土地点、層位の情報を得ることができるようになっている。したがって、今後、埋納された土器資料を再び分析することも可能である。

土器資料のうち、後述する各土器タイプの代表的なサンプルとして選別したものは、ケースに入れてクントウル・ワシ村の研究棟に保管している。また、完形土器についてはク

ントウル・ワシ遺跡博物館に展示してあるものと、研究棟に保管しているものがある。本報告において図面や写真で示したタイプ別のサンプルや完形の土器資料はこれらのなかに含まれる。

2. 土器資料の分析

2-1. クントウル・ワシ遺跡におけるタイポロジー分析の意義

クントウル・ワシ遺跡で出土した 29932 袋の土器資料のうち、およそ 4 分の 1 に相当する 7308 袋を対象に分析をおこなった。

土器資料分析の根幹として位置づけたのはタイポロジーである。土器のタイポロジーが有する一般的な有効性についてはあらためて述べるまでもないが、クントウル・ワシ遺跡の調査研究においては、とくにその意義が大きかったといえる。それは以下のような理由による。

まず、クントウル・ワシ遺跡発掘調査では、先に述べたように大量の土器資料、とくに破片の資料が収集され、しかもそのヴァリエーションが非常に多かったということが挙げられる。クントウル・ワシ遺跡では、形成期の人工的な堆積層の全般にわたって出土するもっとも安定した遺物資料が土器であり、しかも層位的に変化するその特徴が明確に現れるのである。そのため、遺跡の基本的な枠組みとなる編年を確立するための、きわめて有効な資料であったといえる。

しかし、その大部分が破片として収集される土器資料は、それを個別にみて時期による違いを示すことは困難である。しかし、タイプを設定することによって、各時期の土器の特徴を、その属性の組み合わせによって規定された土器タイプを説明することで示すことができる。また、複数の時期に共通するタイプであっても、各時期のタイプを規定する属性の違いによって、時期の違いを明確にすることができる場合もある。さらに、その時期に使用された土器は、ある種の個別土器の有無によってではなく、出土する土器の総体によって特徴づけられなければならない。こうした全体的な把握は、各時期の土器がどのようなタイプによって構成されるのかをみることによって可能となる。

次に、クントウル・ワシ遺跡で出土した土器は、先行するカハマルカ盆地の調査や、クントウル・ワシから近い距離にあるセロ・ブランコ遺跡の調査で得られた土器との類似性が高かったことが挙げられる。これらの遺跡調査研究 (Terada and Onuki 1985, Onuki ed. 1995 など) では、すでに土器のタイポロジーが確立されたため、クントウル・ワシ遺跡のタイポロジーにおいても、それらを参照することができたとともに、比較分析をする際にも、土器タイプの視点からおこなうことが有効であった。

また、タイポロジーは、基本的に土器の破片資料の研究に適した分析方法であるといえる。各タイプを、破片からでも判別可能な器形、装飾、色などの属性によって規定することができるからである。また逆に、層位的データを伴った十分な量の資料の分析によってひとたびタイポロジーが確立されれば、たとえ 1 点の土器破片であっても、そこから得られる属性の情報が十分であれば、タイプに分類して時期を同定することが可能になる。

また、クントウル・ワシ遺跡では調査が持続的かつ長期間にわたっておこなわれ、神殿建築発掘の過程で層位的データが常に蓄積されてきたことが、土器のタイポロジーをより意義あるものにしたといえる。後に述べるように、クントウル・ワシの最初の土器タイポ

ロジーは、第一期調査（1988年～1990年）の資料でおこなわれた。これによって、その後の調査では、各層位から出土した土器資料を観察することによって、その層が関連する時期を判別することができるようになった。一方、それ以後の発掘調査の中で、各時期ごとの建築物が明らかになっていった。時期の明確な建築物に対応する安定した層から出土した土器資料を観察することによって、タイポロジーを修正し、改良していくことが可能になったのである。

2-2. タイポロジーの方法

タイポロジーは、おもに土器の色、表面調整、器形、装飾、胎土・混和材の各属性の特徴をもとに分類することによっておこなった。したがって、後に示す各タイプの記述もこれらの項目から構成される。タイプ名には、これらの属性のうち、色、表面調整、装飾に関する特徴を簡略化した用語を用いた。しかし、タイプ名に示されている属性は、それによって一義的に土器タイプを規定するのではない。一つのタイプは、複数の属性の組み合わせによって規定されることになる。

先に述べたように、クントウル・ワシでは層位的な土器の変化が比較的明確に現れるため、タイプは時期ごとに設定した。時期別でみると、イドロ期が16、クントウル・ワシ期が25、コパ期14、ソテラ期6であり、合計61のタイプを設定した。タイプ名には、最初に時期の略号（イドロ期：ID、クントウル・ワシ期：KWあるいはSG、コパ期：CP、ソテラ期：ST）を付した。その結果、同名のタイプが複数の時期に設定されていることがあるが、その場合でも各時期のタイプごとに属性の分析をおこない、時期による特徴の違いを示した。

4つの時期のなかで、クントウル・ワシ期の土器タイプでは、最初の略号がKWとSGの2つのカテゴリーに分類した。SGは「サンガル・コンプレックス」の略号である。SGの土器は、KWの土器タイプとの共通した要素をもつと同時に、コパ期の土器タイプにみられる特徴も現れる点で、KWの土器タイプ群とは異なる特徴を有する土器複合を構成しているといえる⁽¹⁾。一方、KWとSGの土器タイプの層位的出土状況からみると、どちらもクントウル・ワシ期に属する層から出土することは明確であった。さらにより詳細にみると、SGの土器タイプはコパ期に関連する層のすぐ下層か、クントウル・ワシ期の最初に対応する層よりもやや上層から出土する場合が多かった。ただし、KWの土器タイプはクントウル・ワシ期に対応する層の全体を通じて出土していた。以上のことから、KWの土器タイプがクントウル・ワシ期全体を通じて使用されたのに対し、SGの土器タイプはクントウル・ワシ期途中のある時から製作・使用された可能性が高いと考えられる⁽²⁾。

2-3. クントウル・ワシの土器タイポロジー確立までの過程

先に述べたように、クントウル・ワシ遺跡の土器タイポロジーは、編年のための主要な分析手段となったが、同時に継続的な建築の発掘調査による層位的データをフィードバックすることによって常に検討を加えてきたため、調査研究の過程で修正や変更をおこなってきた。

クントウル・ワシの土器の最初のタイポロジー、すなわち第一期調査で得られた土器資料に基づく分析では、全部で46の土器タイプを設定した（井口1990、Inokuchi 1995）。

このときの土器タイプ数は、イドロ期が7、クントウル・ワシ期が17、サンガル・コンプレックスが6、コパ期が13、ソテラ期が3タイプであった。

第一期調査以後、クントウル・ワシでは発掘調査が継続しておこなわれ、その過程でさらに膨大な土器資料が収集されるに至った。その結果、従来のタイポロジーを一部見直し、タイプの追加や変更をする必要が生じた。とりわけ第一期調査の土器資料による分析では資料数が十分ではなかったイドロ期とソテラ期については、その後の発掘調査において建築物との層位的関係が明確なコンテキストで出土した土器資料が格段に充実した。このため、これら二つの時期についてはタイポロジーを全面的に改訂し、イドロ期では16、ソテラ期では6タイプを設定することとなった。同時に、クントウル・ワシ期のサンガル・コンプレックスの2タイプ、コパ期の1タイプを追加設定し、最終的に全61タイプからなるタイポロジーが確立した。このうち、前回の報告（井口 2002）では、修正の多かったイドロ期とソテラ期の全タイプと、クントウル・ワシ期とコパ期の新タイプについてのみ記述をおこなった。

本稿では、確立したタイポロジーに基づき、クントウル・ワシの土器全61タイプについて報告する。基本的なタイポロジーの変更はないが、その後の分析によって、タイプのなかの属性の記述を修正した部分がある。また、各タイプを代表する土器の実測図と写真もあわせて付録のDVDに収録した。さらに、どのタイプにも分類することができず、出土状況から明確な時期的位置づけも困難であった土器資料のうち、特徴的なものを「未分類土器」として写真を示した（付録DVD:Plate 88-90）。

3. クントウル・ワシ全土器タイプの記述

以下に、クントウル・ワシ出土土器の全タイプについて記述をおこなう。記述においては、各タイプの色、表面調整、器形、装飾の4つの項目についての属性を示した。その他の属性や補足的な事項については「その他」として記述した。記述のほか、各タイプの図面（Fig.1~Fig.85）と写真（Plate 1 ~ Plate 87）を付録DVDに収録した。

なお、土器タイプ名は、アンデス先史の研究における汎用性の高さからスペイン語によって命名した。タイプの一覧は以下の通りである（かっこ内はタイプ名の英訳）。

・イドロ期の土器タイプ（16タイプ）

1. ID-Marrón (Brown)
2. ID-Marrón Pulido (Brown Polished)
3. ID-Marrón Inciso A (Brown Incised A)
4. ID-Marrón Inciso B (Brown Incised B)
5. ID-Rojo Alisado (Red Smoothed)
6. ID-Rojo Pintado (Red Painted)
7. ID-Rojo y Blanco A (Red-and-White A)
8. ID-Rojo y Blanco B (Red-and-White B)
9. ID-Rojo Líneas Bruñidas (Red Line-burnished)
10. ID-Rojo Grafitado (Red Graphitized)
11. ID-Negro Líneas Bruñidas (Black Line-burnished)

12. ID-Pintado Post-cocción en Zona (Zoned Post-coction Painted)
13. ID-Polícromo (Policrome)
14. ID-Beige (Beige)
15. ID-Rojo sobre Anaranjado (Red-on-Orange)
16. ID-Gris Fino (Fine Gray)

・クントウル・ワシ期の土器タイプ (25 タイプ)

1. KW-Negro Fino (Fine Black)
2. KW-Negro Grafitado (Black Graphitized)
3. KW-Negro Alisado (Black Smoothed)
4. KW-Rojo Fino (Fine Red)
5. KW-Rojo Grafitado (Red Graphitized)
6. KW-Rojo Pintado (Red Painted)
7. KW-Rojo Oscuro (Dark Red)
8. KW-Rojo Alisado (Red Smoothed)
9. KW-Marrón Fino (Fine Brown)
10. KW-Marrón Rojizo (Reddish Brown)
11. KW-Marrón Alisado (Brown Smoothed)
12. KW-Marrón (Brown)
13. KW-Marrón Pulido (Brown Polished)
14. KW-Blanco (White)
15. KW-Beige (Beige)
16. KW-Rojo sobre Anaranjado (Red-on-Orange)
17. KW-Gris Fino (Fine Gray)
18. SG-Marrón Inciso (Brown Incised)
19. SG-Marrón Pulido (Brown Polished)
20. SG-Marrón Líneas Bruñidas (Brown Line-burnished)
21. SG-Rojo Engobado (Red Slipped)
22. SG-Rojo Pintado (Red Painted)
23. SG-Rojo Líneas Bruñidas (Red Line-burnished)
24. SG-Rojo Inciso (Red Incised)
25. SG-Marrón Inciso Tosco (Coarse Brown Incised)

・コパ期の土器タイプ (14 タイプ)

1. CP-Marrón (Brown)
2. CP-Marrón Inciso A (Brown Incised A)
3. CP-Marrón Inciso B (Brown Incised B)
4. CP-Marrón Tosco (Coarse Brown)
5. CP-Marrón Inciso Tosco (Coarse Brown Incised)
6. CP-Negro Alisado (Black Smoothed)

7. CP-Blanco Tosco (Coarse White)
8. CP-Rojo Pintado (Red Painted)
9. CP-Rojo Inciso (Red Incised)
10. CP-Rojo y Blanco (Red-and-White)
11. CP-Rojo Pulido (Red Polished)
12. CP-Blanco sobre Rojo (White-on-Red)
13. CP-Rojo Inciso 88 (Red Incised 88)
14. CP-Marrón Pulido (Brown Polished)

・ ソテラ期の土器タイプ (6 タイプ)

1. ST-Marrón (Brown)
2. ST-Rojo Pintado (Red Painted)
3. ST-Rojo Líneas Bruñidas (Red Line-burnished)
4. ST-Rojo sobre Blanco (Red-on-White)
5. ST-Negro Líneas Bruñidas (Black Line-burnished)
6. ST-Negro Alisado (Black Smoothed)

3-1. イドロ期の土器

ID-Marrón (Fig.1, Plate 1)

〔色〕

明褐色、灰褐色、暗褐色、または黒褐色。

〔表面調整〕

多くの場合は器面外側の全体が平滑化されているが、器面外側全体、もしくは口縁部のみ軽く磨研されている場合もある。平滑化されている面は、細い線状の調整痕がみられることもある。

〔器形〕

器形 1：無頸壺。口唇部は丸みを帯びるか平坦である。口縁部の内側がやや肥厚する場合もある(Fig.1-1~4)。

器形 2：器壁上半部がほぼ垂直に立ち、下部に向かって緩やかに弧を描く開口半球形鉢。口唇部は水平方向に平坦となる(Fig.1-5)

器形 3：器壁がほぼ直線的に傾斜する外傾鉢。口縁部は外側がわずかに肥厚する。口唇部は丸味を帯びる(Fig.1-6)。

器形 4：頸部が外傾する短頸壺。口縁部は外側にやや肥厚し、口唇部はほぼ平坦である(Fig.1-7)。

〔装飾〕

器形 1 の場合、口縁部外側に一列に刺突文が施されることもあるが装飾の無いものも多い。器形 2 の場合、胴部に刺突文が施されることがある。また、これと組み合わせて細幅（約 1mm）の刻線が口縁部に沿って入れられることもある。

〔その他〕

本タイプの土器は、クントウル・ワシ期の同名タイプ KW-Marrón との共通性が高い。器

形のほか装飾の刺突文が共通する技法である。また両タイプとも装飾のない無文土器も多い。

ID-Marrón Pulido (Fig.2, Plate 2)

〔色〕

明褐色、茶褐色、灰褐色、または黒褐色。

〔表面調整〕

器面外側が磨研されているが、器形 2~4 の場合は水平方向の調整痕がみられる。器形 1 の土器はよりよく磨研が施されているが、調整痕が観察される場合もある。

〔器形〕

器形 1：鑑形ボトル。口縁部は外側にやや肥厚し、口唇部は水平方向に平坦となる場合が多い。同様の特徴を有する口縁部の長頸ボトルが存在する可能性もある(Fig.2-1~4)。

器形 2：口縁部がわずかに内傾する半球形鉢(椀)。器壁の厚さは胴部で 3~4mm 程度と薄い。口唇部は水平方向に平坦となる(Fig.2-5~6)。

器形 3：器壁が直線的な外傾鉢。口縁部がやや外反する場合もある。口唇部はやや丸みを帯びる(Fig.2-7~8)。

器形 4：開口半球形鉢。器壁の厚さは口縁部に向かってやや厚くなるものの、2~4mm 程度と薄い。口唇部は水平方向に平坦となる(Fig.2-9)。

〔装飾〕

なし。

ID-Marrón Inciso A (Fig.3, Plate 3)

〔色〕

茶褐色、暗褐色、または黒褐色。

〔表面調整〕

口縁部と、多くの場合胴部下部のみが磨研され、その間は軽い平滑化、またはざらざらしたマット面になっている。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口唇部は丸味を帯びる(Fig.3-1~5)。

器形 2：開口半球形鉢。口縁部がやや外反する場合もある。口唇部も、丸味を帯びるものと、やや平坦なものがある(Fig.3-6~7)。

器形 3：器壁が外側に反る外反鉢(Fig.3-8)。

器形 4：半球形鉢(Fig.3-9)。

器形 5：頸部がほぼ垂直に立つ短頸壺(Fig.3-10)。

〔装飾〕

マット面（あるいは平滑面）に幅 1~2mm の刻線（凹線）で、おもに幾何学文様が描かれるが、抽象的な目や、顔のような表現もみられる。後の時期にもみられる圈点文、重圈文等もある。刻線は土器の製作過程において粘土がまだ軟らかいうちに施され、そのときにできた刻線両側の粘土の盛り上がりが残っているものもある。

ID-Marrón Inciso B (Fig.4, Plate 4)

〔色〕

茶褐色、暗褐色、または黒褐色。

〔表面調整〕

全体的によく磨研されており、調整痕はほとんどみられない。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口唇部は丸みを帯びるか、平坦な面になる(Fig.4-1~4)。

器形 2：開口半球形鉢。口唇部は丸みを帯びる (Fig.4-5~6)。

器形 3：器壁がほぼ垂直に立つコップ形土器。口縁部は先端で細くなりやや尖る (Fig.4-7)。

〔装飾〕

幅 1mm にもみえない細い幅の刻線で幾何学文様が描かれる。口縁部に水平な線が一本だけ施される場合もある。

ID-Rojo Alisado (Fig.5, Plate 5)

〔色〕

口縁部から外側の器面が赤色。

〔表面調整〕

粗く平滑化されており、表面には水平方向の調整痕がはっきりと観察される。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口縁部がやや肥厚する場合が多い。口唇部はほぼ平坦なものと同丸味を帯びるものがある (Fig.5-1~2)。

器形 2：胴部から口縁部にかけて器壁がやや反る大型の外反鉢。口縁部は外側にわずかに肥厚する (Fig.5-3~4)。

器形 3：開口半球形鉢 (Fig.5-5)。

〔装飾〕

器壁外側全体に赤色のスリップがかけられる。文様などその他の装飾は施されない。

ID-Rojo Pintado (Fig.6-7, Plate 6-7)

〔色〕

一般的に口縁部のみ赤色、胴部は茶褐色、または灰褐色。

〔表面調整〕

軽度の平滑化が施されるか、ごく粗い調整のみの場合もある。多くの場合、水平方向に細い調整痕がみられる。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口縁部はやや肥厚する場合もある。口唇部は平坦なものと同丸味を帯びるものがある (Fig. 6-1~5)。

器形 2：開口半球形鉢。口唇部は丸味を帯びる。口縁部はやや外側に肥厚する (6-6)。

器形 3：器壁上部がわずかに反る外反鉢 (Fig. 6-7)。

器形 4：頸部が外反する短頸壺。口唇部は丸味を帯びる (Fig.6-8~9)。

器形 5：無頸壺(Fig.7-1~9)。口縁部が内側に肥厚する場合がある(Fig. 7-5~9)。口唇部は一般的に丸味を帯びるが、まれに先端が尖る場合 (Fig.7-1~2)もある。

〔装飾〕

ほとんどの場合、口縁部にのみ帯状に赤色顔料が塗布される。器形 1、2 の場合は、口縁部から器面内側まで赤く塗られることもある。また器形 4 の場合は頸部全体が赤く塗られることもある。

ID-Rojo y Blanco A (サブタイプ A, B) (Fig.8-9, Plate 8-9)

〔色〕

口縁部から器面内部にかけては赤色。胴部は赤色と白色の部分に分かれる。

〔表面調整〕

赤色顔料充填部分は、平滑化、もしくは軽度の磨研が施される。それ以外の部分は平滑化されているか、もしくは粗い調整の場合もある。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口縁部がやや外側に肥厚する場合もある。口唇部は丸味を帯びる場合と、平坦になる場合とがある (Fig. 8-1~4, Fig.9-1~2)。

器形 2：器壁がわずかに反り返る外反鉢。口唇部はやや丸味を帯びる (Fig.8-5, Fig.9-3~5)。

器形 3：開口半球形鉢。口唇部は丸味を帯びる(8-6)。

器形 4：口縁部が閉じる半球形鉢。口縁部は内側に肥厚し、口唇部は平坦となる(Fig.9-6)。

〔装飾〕

装飾の違いによって、以下のように二つのサブタイプ A、B に分類できる。器形は、サブタイプ A が器形 1、2、3 に、サブタイプ B は器形 1、2、4 に対応する。

サブタイプ A：口縁部から器面内側にかけて、また胴部下部から底面にかけて赤色顔料が塗布され、胴部の残りの部分には帯状に白色顔料が充填される。白色顔料の充填部分に 1~1.5mm ほどのごく浅い刻線によって、格子や渦巻き、その他の幾何学文様が描かれる。器形 1 が多い。

サブタイプ B：器面全体、もしくは一部を赤色顔料で充填し、刻線ではなく白色顔料で主に曲線的な文様を描く。器形 3, 4 が多い。

ID-Rojo y Blanco B (Fig.10, Plate 10)

〔色〕

器面の地の部分はクリーム色に近い白色、口縁部や文様は暗赤色。

〔表面調整〕

磨研されているか、もしくはよく平滑化されている。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口唇部はやや外側に傾くが丸味を帯びる (10-1~2)。

器形 2：外傾鉢 (10-3~4)。

器形 3：短頸壺 (10-5)。

〔装飾〕器形 1 の場合、器面全体に白色あるいはクリーム色のスリップがかけられ、口縁部のみ赤色の顔料を塗布する。器形 3 の場合、胴部に赤色顔料で幾何学的文様が描かれる

こともある。

ID-Rojo Líneas Bruñidas (Fig.11, Plate 11)

〔色〕

赤色、または赤褐色。

〔表面調整〕

器面全体が粗く平滑化されるが、文様部分がマット面に仕上げられることが多い。文様のない部分が磨研される場合もある。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口縁部がわずかに外側に肥厚するか、全体的に太くなる。口唇部は平坦となる(Fig.11-1~2)。

器形 2：開口半球形鉢。口縁部が肥厚する(Fig.11-3)。

器形 3：短頸壺。頸部はわずかに外傾する。口唇部も外側に傾く (Fig.11-4)。

〔装飾〕

調整の粗いマット面に、幅 1mm 程度のごく浅い凹線（磨線）で、多くの場合、格子文様を描く。凹線の部分のみが磨研されたように光沢が出る。縦方向の直線文様の場合もある。

ID-Rojo Graftado (Fig.12, Plate 12)

〔色〕

器面の地の色は赤色。その上は部分的に黒鉛色。

〔表面調整〕

磨研、あるいは平滑化されている。

〔器形〕

器形 1：鐘形ボトル。

器形 2：鉢形土器(Fig.12-1)。

〔装飾〕

多くの場合、器面全体に赤いスリップがかけられており、その上に部分的に黒鉛が塗布される。器形 1 の場合、黒鉛は胴部に塗布され、同時に細幅、太幅刻線文様が入り、これによって黒鉛塗布部分が区画化される場合もある。このほか、櫛歯状施文具による平行線や、刺突文が施されることもある。

ID-Negro Líneas Bruñidas (Fig.13, Plate 13)

〔色〕

黒色、または黒褐色。

〔表面調整〕

軽度に磨研されている部分と、粗い整形のマット面とに分かれる。口縁部もしくは口唇部には、ほとんどの場合磨研が施される。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢(Fig.13-1)。

器形 2：外反鉢 (Fig.13-2~3)。

器形 3：頸部の外反する短頸壺。口縁部はやや外側に肥厚する (Fig.13-4)。

〔装飾〕

整形の粗いマット面の部分に、幅 1mm 程度のごく浅い凹線（磨線）で、多くの場合格子文様を描く。凹線の部分のみが磨研されたように光沢が出る。縦方向の直線文様の場合もある。

ID-Pintado Post-cocción en Zona (Fig.14, Plate 14-15)

〔色〕

後述する顔料の充填されていない地の部分は、茶褐色、暗褐色、または黒褐色。顔料が充填される顔料は赤が最も多いが、ほかに白、黄色、まれに緑色もある。

〔表面調整〕

多くの場合、鉢形土器の口縁部から器面内側、そして胴部下方部分を磨研し、その間を平滑化あるいは粗いマット面にする。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口唇部もやや外側に傾斜し、平坦になるものが多い (Fig.14-1~8)。

器形 2：開口半球形鉢。口縁部がやや肥厚する。口唇部は丸味を帯びる場合と平坦になる場合とがある (Fig.14-9~11)。

器形 3：半球形鉢。口縁部が外反する (Fig.14-12)。

〔装飾〕

上述のマット面、もしくは平滑化された面に、幅 1~1.5mm ほどの刻線で幾何学文様が描かれる。量は少ないが、四角い目の表現や圏点文を使った抽象的な顔の表現もある。刻線は粘土がまだ軟らかいうちに施され、そのときにできた刻線両側の粘土の盛り上がりが残っているものもある。土器の焼成後、刻線によって区画化された内部に前述の色が充填される。

ID-Policromo (Fig.15, Plate 16)

〔色〕

器面の地の色は赤色。その上から部分的に白色あるいはクリーム色、暗褐色の顔料が充填される。

〔表面調整〕

磨研されている。

〔器形〕

外傾鉢。口唇部は平坦となる (Fig.15-1)。

〔装飾〕

器面全体に赤色のスリップがかけられ、器面外側に直線の細幅刻線が施される。刻線によって区画化された部分に、土器の焼成後、白色や暗褐色の顔料が充填されている。

ID-Beige (Fig.16, Plate17)

[色]

器面の地の色は薄く明るい茶色、あるいはオレンジ色に近いベージュ色。文様は暗赤色。

[表面整形]

磨研されているが、水平方向の調整痕がわずかに観察される。

[器形]

器形 1：外傾鉢。口唇部は丸味を帯びる場合と、外側にやや傾斜して平坦になる場合とがある (Fig.16-1~5)。

器形 2：口縁部が内側に閉じる半球形鉢 (Fig.16-6)。

[装飾]

暗赤色の顔料が口縁部に帯状に塗布され、同じ顔料で胴部に半円、階段形、その他の幾何学文様が描かれる。

[その他]

本タイプはイドロ期の土器タイプとして設定したものだが、クントゥル・ワシ期にも同名のタイプを設定している。

ID-Rojo sobre Anaranjado (Fig.17, Plate 18)

[色]

器面の地の色は橙色。焼成の影響により、灰色になることもある。文様部分は赤色。

[表面調整]

磨研されている。

[器形]

器形 1：開口半球形鉢。口唇部には丸味を帯びるものと平坦なものがある (Fig.17-1~4)。

器形 2：半球形鉢 (Fig.17-5)。

[装飾]

橙色の器面の地に、外側には赤色顔料で幾何学的文様が描かれる。口縁部から器面内側まで赤色に顔料が塗布される場合もあるが、多くの場合、口縁部もしくは口唇部が赤く塗られる。

[その他]

本タイプはイドロ期のタイプとして設定したものだが、クントゥル・ワシ期にも同名のタイプ **KW-Rojo sobre Anaranjado** を設定した。ID-Rojo sobre Anaranjado では器形は鉢形土器の2種類に限定されるのに対し、KW-Rojo sobre Anaranjado では5種類の器形がある点異なる。本タイプの重要な属性である胎土の緻密さは両時期に共通している。

ID-Gris Fino (Fig.18, Plate 19)

[色]

灰色、灰褐色、暗褐色

[表面調整]

非常によく磨研されており、光沢のある場合もある。

〔器形〕

鏡形ボトル。頸部はやや外反し、口縁部は外側に少し肥厚する。口唇部は平坦となる（18-1~6）。

〔装飾〕

胴部に細幅刻線で文様が施されているものがあるが、資料数が少ないので、他の装飾技法や文様の表現内容などは不明である。

〔その他〕

本タイプはイドロ期のタイプとして設定したものだが、クントゥル・ワシ期にも同名のタイプ KW-Gris Fino を設定している。KW-Gris Fino の場合には、胴部に太幅の凹線が施される場合が多く、本タイプのような細幅刻線は少ない。しかし、同タイプの重要な属性である非常に緻密な胎土は両時期に共通する。

3-2. クントゥル・ワシ期の土器

KW-Negro Fino (Fig.19-21, Plate 20-23)

〔色〕

黒、あるいは暗褐色。

〔表面調整〕 非常によく磨研されており、保存状態の良好な場合は光沢がある。

〔器形〕

器形 1：鏡型ボトル。口縁部が外側に肥厚し、外切れとなることが多い。頸部は上部から下部にかけてやや径が広がるか、中央部が太くなるものが多い(19-1~12)。

器形 2：器壁がほとんど垂直になるか、または外傾するコップ型土器。口縁部は大きく外側へ出っ張る場合が多い。口唇部は水平な面になる場合が多い(20-1~4)。

器形 3：開口半球形鉢。口縁部は外切れになることが多い（20-5~7）。

器形 4：外傾鉢（20-8）。

器形 5：器壁上部が大きく開く朝顔鉢（20-9~10）。

器形 6：口縁部が内側に閉じる半球形鉢(21-1~2)。

器形 7：無頸壺（21-3~4）。

器形 8：長頸ボトル。

〔装飾〕 クントゥル・ワシの土器のなかでもっとも多様な装飾が施される土器タイプのひとつである。使用される装飾の技法は刻線の底部までよく磨研されている凹線、細幅刻線、刺突文、ロッカー・スタンプ、鋸歯状押捺文、貼付文、浮き彫り、焼成後の顔料（赤・黄色）充填、彫塑などである。こうした装飾の技法によって、曲線を中心とした幾何的文様のほか、動物、人面などを表象する。

〔その他〕

胎土の粒子が非常に細かく均一であるのが特徴である。

KW-Negro Grafitado (Fig.22, Plate 24)

〔色〕

黒鉛色。

〔表面調整〕

軽く、あるいはよく磨研されている。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口縁部は外切れになる場合が多い(Fig.22-1~3)。

器形 2：器壁が外側に大きく外傾する浅鉢 (Fig.22-4)。

器形 3：器壁がわずかに外傾しながらまっすぐに伸びるコップ型土器(Fig.22-5)。

器形 4：無頸壺(図を挿入せよ) (Fig.22-6) 。

器形 5：注口部が鐙形のボトル形土器 (Fig.22-7) 。

〔装飾〕

器形 3 の場合、器面外側にスタンプによる圏点文や細幅刻線が施される。器形 4 の場合、口縁部近くに細幅刻線や紐状の貼付文が施される。器形 5 の場合、鋸歯状押捺文、刺突文、凹線、帯状の貼付文などが施される。彫塑によるジャガー的動物のモチーフも確認されている。

〔その他〕

胎土の粒子が非常に細かく均一であるのが特徴である。

KW-Negro Alisado (Fig.23, Plate 25)

〔色〕

暗褐色

〔表面調整〕

平滑に調整されるか、あるいは軽度の磨研が施される。多くの場合、器面に横方向の調整痕が観察される。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れとなる (Fig.23-1~2)。

器形 2：外傾鉢(Fig.23-3)。

器形 3：器壁が反り返るコップ型土器 (Fig.23-4) 。

器形 4：器壁が反り返る外反鉢 (Fig.23-5) 。

器形 5：頸部が外反する短頸壺 (Fig.23-6~9) 。

器形 6：頸部の径が大きい広口壺 (Fig.23-8~9)。

器形 7：無頸壺 (Fig.23-10) 。

〔装飾〕

なし。

KW-Rojo Fino (Fig.24, Plate 26-27)

〔色〕 多くの場合器面全体が赤色。磨研面と平滑面とに別れる場合、前者が赤く後者は茶褐色やはだ色になる場合もある。

〔表面調整〕

非常によく磨研されている。刻線によって磨研面と平滑面とに分割される場合もある。

〔器形〕

器形 1：鐙形ボトル。口縁部が外側に肥厚し、外切れとなることが多い。(Fig.24-1~9)。

器形 2：器壁がまっすぐの外傾鉢 (Fig.24-10)。

器形 3：開口半球形鉢 (Fig.24-11)。

器形 4：器壁がわずかに反る外反鉢 (Fig.24-12~13)。

器形 5：器壁がほぼ垂直に立つコップ型土器。口縁部が外側に出っ張る (Fig.24-14~15)。

器形 6：無頸壺 (Fig.24-16)。

器形 7：長頸ボトル。

〔装飾〕細幅刻線、凹線、プレインのロッカー・スタンプ、刺突文、浮き彫りなどの技法によって装飾が施される。幾何的な文様が多い。

〔その他〕胎土の粒子は細かく、非常に緻密な胎土である。

KW-Rojo Grafitado (Fig.25, Plate 28)

〔色〕赤地に黒鉛色。

〔表面調整〕

平滑化、あるいは磨研される。

〔器形〕

器形 1：比較的大型の半球形鉢。口縁部は外切れとなる (Fig.25-1~3)。

器形 2：器壁がまっすぐの外傾鉢 (Fig.25-4)。

器形 3：外反鉢 (Fig.25-5)。

器形 4：比較的大型の無頸壺 (Fig.25-6~7)。

〔装飾〕

太い刻線内にグラファイトが充填されることが多いが、平滑面に充填されることもある。器形 4 の場合には口縁部に帯状の貼付文がつく。凹線、浮き彫りなどによって牙、蛇などの動物や人面が表現されることもある。また同心円の文様も確認されている。

KW-Rojo Pintado (Fig.26-29, Plate 29-30)

〔色〕

明褐色、赤褐色、暗褐色の地に、赤色顔料充填。

〔表面調整〕

平滑化されている。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部外側が肥厚するものがある。口唇部は丸みを帯びることが多い (Fig.26-1~8)。

器形 2：外傾鉢。口縁部が両側に肥厚するものもある (Fig.26-9~11)。

器形 3：比較的大型の半球形鉢。口縁部が肥厚し、口唇部は平坦になるものが多い (Fig.27-1~3)。

器形 4：短頸壺。頸部が外側に反るものもある (Fig.27-4~9, Fig.28-1~6, Fig.29-1~3)。

器形 5：無頸壺。口縁部が肥厚することが多い (Fig.29-4~6)。

〔装飾〕

鉢 (器形 1~3) の場合には多くの場合口縁部及び器面内側、壺 (器形 4,5) の場合には口縁部に赤色顔料が帯状に充填される。

KW-Rojo Oscuro (Fig.30, Plate 31)

〔色〕

黒色面と暗赤色面とに分かれる。

〔表面調整〕

磨研されている。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢 (Fig.30-1~2)。

器形 2：小型の半球形鉢。口縁部が両側に肥厚する (Fig.30-3)。

器形 3：底部の平坦なボトル型土器 (Fig.30-4)。

〔装飾〕

凹線によって黒色部分と赤褐色の部分とに分割され、黒色面に刺突文や細い刻線が施される。器形 2 には、口縁部近くにボタン状の貼付文がつくこともある。

KW-Rojo Alisado (Fig.31-32, Plate 32)

〔色〕

赤もしくは赤褐色。

〔表面調整〕

平滑に調整され、多くの場合、水平方向に調整痕が見られる。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れとなる場合が多い (Fig.31-1~8)。

器形 2：外傾鉢 (Fig.31-9)。

器形 3：比較的大型の半球形鉢。口縁部が肥厚し、口唇部は丸みを帯びる (Fig.32-1~2)。

器形 4：短頸壺 (Fig.32-3~5)。

器形 5：無頸壺 (Fig.32-6~7)。

〔装飾〕

器面全体に赤色スリッパを充填する。

KW-Marrón Fino (Fig.33, Plate 33)

〔色〕

明褐色

〔表面調整〕

非常によく磨研されている。刻線によって磨研面と平滑面とに分割される場合もある。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢 (Fig.33-1~4)。

器形 2：外傾鉢 (Fig.33-5~6)。

器形 3：半球形鉢 (Fig.33-7~8)。

器形 4：器壁がほぼ垂直に立つコップ型土器。口縁部は外側に大きく出っ張るものが多い (Fig.33-9~13)。

器形 5：ボトル型土器 (Fig.33-14~16)。

〔装飾〕

細幅刻線や凹線、鋸歯状ロッカー・スタンプ、刺突文が施される。細幅刻線内には焼成後に赤色の顔料が充填されることもある。

KW-Marrón Rojizo (Fig.34, Plate 34)

〔色〕

赤褐色

〔表面調整〕

平滑化される。

〔器形〕

器形 1：短頸壺。頸部が外側へ外反することが多い(Fig.34-1~5, 7)。

器形 2：広口壺 (Fig.34-6)。

器形 3：半球形鉢 (Fig.34-8)。

器形 4：開口半球形鉢 (Fig.34-9~10)。

器形 5：外傾鉢 (Fig.34-11)。

器形 6：無頸壺 (Fig.34-12)。

KW-Marrón Alisado (Fig.35-36, Plate35)

〔色〕

明褐色

〔表面調整〕

平滑化されるか、もしくは軽度に磨研されている。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れになることが多い(Fig.35-1~7)。

器形 2：半球形鉢(Fig.35-8~9)。

器形 3：外傾鉢。口縁部は外切れになることが多い(Fig.36-1~3)。

器形 4：短頸壺。頸部は外反する (Fig.36-9~10)。

器形 5：無頸壺 (Fig.36-6~7)。

器形 6：朝顔鉢 (Fig.36-8~9)。

〔装飾〕

なし。

KW-Marrón (Fig.37-39, Plate 36-38)

〔色〕

褐色、あるいは明褐色、暗褐色。

〔表面調整〕

粗い調整、あるいは平滑化される。ただし多くの場合、口唇部には他の部分に比べてより良い調整が施される。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口唇部は丸みを帯びるもの、やや外側に切れるもの、外側に肥厚

するものなどがある (Fig.37-1~5)。

器形 2 : 外傾鉢(Fig.37-6~9)。

器形 3 : 器壁がやや外側に反り返る外反鉢(Fig.37-6~9)。

器形 4 : 短頸壺。頸部がやや外反することが多い (Fig.38-1~6) 。

器形 5 : 広口の短頸壺 (Fig.39-1~6) 。

器形 6 : 無頸壺 (Fig. 39-7~9)。

器形 7 : 高坏型土器。

器形 8 : 焙烙型土器。

〔装飾〕

器形 3、4、5 では、胴部にボタン状の貼付文をつけ、さらにその上に縦方向の刷毛痕をつけるものが多い。また、紐状の貼付文が施される場合もある。器形 6 の場合は刺突文が施されることが多い。器形 1、2、3 の場合、装飾は施されない。

KW-Marrón Pulido (Fig.40, Plate 39)

〔色〕

橙色に近い明褐色。器形 4 の場合には、赤色顔料の痕が表面に付着している。

〔表面調整〕

磨研されている。器形 4 の場合には、磨研痕が残る。また同じく器形 3 の場合、内側の方が外側に比べよく磨研されている。

〔器形〕

器形 1 : 開口半球形鉢。口縁部はやや外側に切れるか、もしくは肥厚する (Fig.40-1~5)。

器形 2 : 外傾鉢(Fig.40-6~7)。

器形 3 : 半球形鉢(Fig.40-8~10)。

器形 4 : 浅鉢。あるいはパレットのような平坦な面を含む皿型土器 (Fig.40-11~12) 。

〔装飾〕

なし。

KW-Blanco (Fig.41, Plate 40)

〔色〕

器面全体もしくは口縁部のみ白色。口縁部のみが白色の場合、残りの器壁外面は明褐色。器形 3 では、まれに口縁部と共に頸部と胴部の境目が白色の場合がある。

〔表面調整〕

軽く磨研されるか、平滑化される。

〔器形〕

器形 1 : 開口半球形鉢。口縁部は外切れとなる (Fig.41-1~5)。

器形 2 : 器壁が外傾する浅鉢 (Fig.41-6~7)。

器形 3 : 短頸壺。頸部がやや外側に反る(Fig.41-8~9)。

器形 4 : 無頸壺 (Fig.41-10~11) 。

器形 5 : 浅鉢。あるいはパレットのような平坦な面を含む皿型土器。

〔装飾〕

白色顔料が充填される。

KW-Beige (Fig.42, Plate 41)

〔色〕

地の色はベージュ色、文様は赤色。

〔表面調整〕

磨研されている。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口唇部は丸みを帯びる (Fig.42-1~7)。

器形 2：開口半球形鉢。口唇部は丸みを帯びることが多いが、まれに外切れになるものがある (Fig.42-8~13)。

器形 3：器壁がわずかに外に反る外反鉢 (Fig.42-14~15)。

器形 4：短頸壺 (Fig.42-16)。

器形 5：無頸壺 (Fig.42-17)。

〔装飾〕

赤色顔料が口縁部に帯状に塗られ、器面外側には幾何的な文様が描かれる。

KW-Rojo sobre Anaranjado (Fig.43-44, Plate 42-43)

〔色〕

地の色は橙色。文様は赤色。

〔表面調整〕

器形 1、2、5 の場合は磨研される。器形 3、4 の場合は平滑化される。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口唇部は丸みを帯びる (Fig.43-1~7)。

器形 2：外傾鉢。口唇部は丸みを帯びる (Fig.43-8~14)。

器形 3：半球形鉢。口唇部は丸みを帯びる (Fig.44-1~6)。

器形 4：短頸壺。頸部は外反する (Fig.44-7~15)。

器形 5：ボトル型土器 (Fig.44-16)。

〔装飾〕

橙色の地の器面に、赤色顔料で文様が描かれる。鉢の場合、口唇部から内側底部近くまで赤色顔料が充填されるものもある。

〔その他〕

胎土が非常にきめ細かく緻密である。混和材として石英、長石などの非常に細かい粒が均一に混じる。

KW-Gris Fino (Fig.45, Plate 44)

〔色〕

灰色または明褐色。

〔表面調整〕

非常に良く磨研されている。

〔器形〕

ボトル型土器。注口部は鐙形となる。口唇部が外側に出っ張る (Fig.45-1~11)。

〔装飾〕

胴部に刻線の底まで磨研された凹線で文様が描かれることが多い。また、ロッカースタンプ、刷毛文様、刺突文、小さく丸い貼付文に鋸歯状押捺文をつけることもある。

〔その他〕

胎土は、クントゥル・ワシ全時期の土器を通じて、もっとも緻密なであり、非常に硬く焼き上げられている。石英や長石などの混和材も非常に細かくされ、均一に混じっている。

SG-Marrón Inciso (Fig.46, Plate 45)

〔色〕

明褐色、暗褐色、あるいは黒色

〔表面調整〕

器面全体が磨研されている場合と、刻線によって磨研面と平滑面とに分割される場合とがある。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れになるか、または肥厚する (Fig.46-1~9)。

器形 2：器壁が口縁部にかけて内側に閉じる半球形鉢。口縁部は外切れで、かつ肥厚することが多い (Fig.46-10~14)。

器形 3：外傾鉢。口縁部は外切れとなる (Fig.46-15~17)。

〔装飾〕

器面外側の口縁部に近い部分に細幅刻線、あるいはスタンプによって幾何学文様が描かれる。文様は圏点文、同心の半円、逆三角形などの場合が多い。上述のように表面調整が磨研面と平滑面とに別れる場合、文様は平滑面に施されるが、その文様は圏点文に限られる。

SG-Marrón Pulido (Fig.47, Plate 46)

〔色〕

明褐色、暗褐色、あるいは黒色

〔表面調整〕

よく磨研されている。

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れになるか、または肥厚する (Fig.47-1~8)。

器形 2：口縁がやや内側に閉じる半球形鉢 (Fig.47-9)。

〔装飾〕

なし

SG-Marrón Líneas Bruñidas (Fig.48-49, Plate 47)

〔色〕

明褐色、暗褐色、あるいは黒色

〔表面調整〕

磨研面と平滑面とにわかれる。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れとなり、さらに肥厚するものもある (Fig.48-1~10)。

器形 2：外傾鉢。口縁部はやや外切れになる (Fig.49-1~4)。

器形 3：口縁部がやや内側に閉じていく半球形鉢。口縁部は外切れになり、かつ肥厚する (Fig.49-5)。

器形 4：器壁中央から口縁部にかけてやや外側に反る外反鉢 (Fig.49-6~7)。

器形 5：朝顔鉢 (Fig.49-8~9)。

器形 6：短頸壺 (Fig.49-10~11)。

器形 7：無頸壺 (Fig.49-12)。

〔装飾〕

器形 1~4 と 7 の場合、器壁外側に口縁部付近から幅およそ 2~4cm の部分が軽く平滑化され、他の部分が磨研される。平滑面と磨研面との境界に凹線がひかれることもある。平滑面には磨線で水平線、垂線、斜線、格子、同心半円などの幾何文様が描かれる。器形 5 の場合は、器面外側の一部分が平滑面のまま残され、磨線文様が施される。また、磨研された器面の内側部分に、スタンプ、あるいは細幅刻線で圏点文が描かれることがある。器形 6 の場合、頸部、または頸部から胴部の上部にかけて平滑化し残りの部分を磨研したうえで、平滑面に磨線で文様を施す。

SG-Rojo Engobado (Fig.50, Plate 48)

〔色〕

器形 1、2 の場合、頸部のみ赤色で胴部は暗褐色。器形 3 の場合は底部をのぞく器面の外側全体が赤色。

〔表面調整〕

平滑に調整される。多くの場合、水平方向に調整痕がみられる。

〔器形〕

器形 1：短頸壺。頸部が外反するものが多い。口唇部は丸みを帯びることが多い (Fig.50-1~7)。

器形 2：広口壺。口縁部は外側にやや肥厚する (Fig.50-8~9)。

器形 3：半球形鉢 (Fig.50-10)。

〔装飾〕

器形 1、2 の場合、頸部にのみ赤色のスリップがかけられる。器形 3 の場合は底部をのぞく器面の外側全体に赤色のスリップがかけられる。

SG-Rojo Pintado (Fig.51-52, Plate 49)

〔色〕

器面の地は明褐色、赤褐色あるいは暗褐色。口縁部外側が赤色。

〔表面調整〕

基本的には平滑に調整されているが、赤色顔料料充填部分のみが軽く磨研されている場合もある。

〔器形〕

器形 1：半球形鉢。口縁部は肥厚するものが多い (Fig.51-1~6)。

器形 2：開口半球形鉢。口縁部がやや外側に切れるか肥厚する (Fig.51-7~9)。

器形 3：短頸壺。多くの場合、口縁部がやや外側に肥厚する (Fig.52-1~6)。

器形 4：無頸壺 (Fig.52-7)。

器形 5：比較的大型の広口壺 (Fig.52-8~9)。

〔装飾〕

口縁部外側に帯状に赤色の顔料が塗られる。器形 2 の場合には、器面内側まで赤色に塗られることもある。

SG-Rojo Líneas Bruñidas (Fig.53, Plate 50)

〔色〕

赤色

〔表面調整〕

軽度に磨研された面と平滑面とに分割される場合が多い。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れとなるか、肥厚するものが多い (Fig.53-1~7)。

器形 2：外傾鉢。口縁部は外切れになる (Fig.53-8~9)。

器形 3：器壁が内側に閉じる半球形鉢 (Fig.53-10~11)。

器形 4：朝顔鉢 (Fig.53-12)。

器形 5：短頸壺 (Fig.53-13)。

〔装飾〕

器面外側の平滑面に、磨線で斜線、垂線、同心半円などの文様を描く。

〔その他〕

同じ磨線装飾がある SG の土器タイプ SG-Marrón Líneas Bruñidas に比べると、文様は単純で粗雑である。また SG-Marrón Líneas Bruñidas の鉢の器形においては口縁部の外切れが非常に鋭いのが顕著であったが、本タイプではやや鈍い外切れである。また、SG-Marrón Líneas Bruñidas では、磨線文様が施される平滑面とそれ以外の磨研面との区分が明確な場合が多かったが、本タイプでは、全体が平滑面の場合が多い。

SG-Rojo Inciso (Fig.54, Plate 51)

〔色〕

赤色。

〔表面調整〕

磨研されているが、整形痕が水平方向にみられる。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は外切れとなるか、肥厚する (Fig.54-1~3)。

器形 2：外傾鉢。口縁部はやや肥厚し、口唇部は平坦で外傾する (Fig.54-4)。

〔装飾〕

器面全体に赤色のスリッがかけられる。幅 1~2mm ほどの凹線による直線が描かれ、その直線によって区画化された部分にスタンプ技法による圏点文が並ぶ。

SG-Marrón Inciso Tosco (Fig.55, Plate 52)

〔色〕

明褐色、または茶褐色。

〔表面調整〕

ごく粗い平滑化が施される。

〔器形〕

器形 1：短頸壺。口縁部は内側が肥厚する場合がある (Fig.55-1~2)。

器形 2：大型の甕形土器。口縁部は内側が肥厚する場合がある (Fig.55-3~5)。

〔装飾〕

器面外側の口縁部から胴部にかけて、先の鋭い施文具で施された太幅(約 2~5mm) の刻線、貼付文、浮き彫りなどの装飾技法により、人間、あるいは動物的な目鼻が表現される場合が多い。胴部には、幾何学的文様が描かれることもある。

〔その他〕

コパ期にも同名のタイプ CP- Marrón Inciso Tosco を設定しているが、両者の明確な属性の差異は見いだせない。

3-3. コパ期の土器

CP-Marrón (Fig.56-57, Plate 53-55)

〔色〕

褐色または赤褐色

〔表面調整〕

口縁部のみ軽く磨研されているが、調整痕がみられる。その他の部分は軽度に平滑化される。

〔器形〕

器形 1：頸部が長く、外反する(有頸)壺。口縁部はやや外側に肥厚する (Fig.56-1~6)。

器形 2：短頸壺 (Fig.56-7~8)。

器形 3：広口壺。口縁部はやや外側に肥厚する (Fig.56-9~10)。

器形 4：大型の半球形鉢。口唇部は丸みを帯びる (Fig.57-1~3)。

器形 5：開口半球形鉢 (Fig.57-4)。

器形 6：無頸壺。

器形 7：高坏形土器。

〔装飾〕

器形 4 の場合、口縁部の磨研面とそれ以外の平滑面との境界に太幅刻線を施すことがある。器形 2 と 6 の場合、胴部に動物的な顔が塑造されることがある。また、器形 2 と 5 の場合、磨線が施されることもある。

CP-Marrón Inciso A (Fig.58-59, Plate 56-58)

〔色〕

暗褐色、褐色あるいは明褐色

〔表面調整〕

器形 1 の場合、器面全体が磨研されている。器形 2 の場合は、器面外側が磨研されている。器形 3 の場合、器面全体が軽度に磨研されている。

〔器形〕

器形 1：朝顔鉢。器壁が中央部から口縁部にかけて大きく外傾して開く。把手がつくこともある (Fig.58-1~10)。

器形 2：半球形鉢に筒状の把手がつく焙烙形土器 (Fig.59-1~4)。

器形 3：上部が外側に湾曲する半球形鉢 (Fig.59-5~7)。

〔装飾〕

細幅刻線やスタンプにより同心円文や圏点文、その他の幾何学文様が描かれる。器形 1 には細幅刻線で蛇が描かれているものもある。器形 3 の器面外側には、突起状の貼付文がつくことがある。

CP-Marrón Inciso B (Fig.60, Plate 59-61)

〔色〕

明褐色、褐色、暗褐色あるいは黒色

〔表面調整〕

磨研されている。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。もっとも多い器形である。口縁部は先細りし、口唇部が丸みを帯びるのが大部分である (Fig.60-1~13)。

器形 2：外傾鉢 (Fig.60-14~17)。

〔装飾〕

器面外側の口縁部に近い部分に細幅刻線によって文様が描かれる。文様は、垂線、水平線、斜線、格子文、雷文、三角形、同心円、同心半円、圏点文、四角形などの幾何文様を様々に組み合わせる。圏点文などの場合にはスタンプによって文様がつけられることもある。またしばしば刻線内には焼成後に赤色顔料が充填される。

CP-Marrón Tosco (Fig.61-63, Plate 62)

〔色〕

灰褐色あるいは暗褐色

〔表面調整〕

ごく粗い調整が施される。

〔器形〕

器形 1：大型の開口半球形鉢 (Fig.61-1)。

器形 2：短頸壺。頸部は口縁に向かってやや内側へ閉じる (Fig.61-2~5)。

器形 3：器壁が薄い広口壺。頸部は外傾し、口縁部は外側にやや肥厚する (Fig.62-1~7)。

器形 4：大型の甕形土器。口縁部から胴部にかけてやや外傾、あるいは内傾しながら器壁が比較的まっすぐにのびる。(Fig.63-1~4)。

器形 5：半球形鉢。

〔装飾〕

なし。

CP-Marrón Inciso Tosco (Fig.64-67, Plate 63-64)

〔色〕

灰褐色あるいは暗褐色

〔表面調整〕

ごく粗い整形が施される。

〔器形〕

大型の甕形土器 (Fig.64,65,66,67)。

〔装飾〕

器面外側の口縁部から胴部にかけて、太く鋭い刻線、刺突文、貼付文、また彫塑や浮き彫りの技法により、動物的あるいは人間的な顔が描かれる。

CP-Negro Alisado (Fig.68, Plate 65)

〔色〕

黒色

〔表面調整〕

平滑化され、調整痕がみられる。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢 (Fig.68-1)。

器形 2：半球形鉢 (Fig.68-2)。

器形 3：朝顔鉢 (Fig.68-3)。

器形 4：ボトル形土器 (Fig.68-4)。

器形 5：短頸壺 (Fig.68-5~6)。

〔装飾〕

器形 1 に細幅刻線が施されることがあるが、基本的に装飾はない。

CP-Blanco Tosco (Fig.69, Plate 66)

〔色〕

白色あるいはクリーム色

〔表面調整〕

ごく粗い調整か、軽く平滑化される。

〔器形〕

器形 1：頸部が外反する短頸壺あるいは広口壺。口縁部が外側に肥厚することが多い(Fig. 69-1~5)。

器形 2：外傾鉢(Fig.69-6)。

器形 3：半球形鉢 (Fig.69-7)。

器形 4：無頸壺 (Fig.69-8)。

〔装飾〕

器面全体に白色スリップをかける。

CP-Rojo Pintado (Fig.70, Plate 67-69)

〔色〕

褐色あるいは赤褐色の地に、赤色顔料が充填されている。

〔表面調整〕

赤色顔料充填部分は軽く磨研されている。それ以外は軽く平滑化される。

〔器形〕

器形 1：頸部がやや外反する短頸壺。口縁部は外側にやや肥厚する (Fig.70-1~4)。

器形 2：長頸壺 (Fig.70-5)。

器形 3：開口半球形鉢 (Fig.70-6~7)。

器形 4：外傾鉢 (Fig.70-8)。

器形 5：大型の半球形鉢。口唇部は平坦になる (Fig.70-9~10)。

器形 6：半球形鉢。

〔装飾〕

口縁部に帯状に赤色顔料を充填し軽く磨研する。器形 5 の場合、しばしば口縁部近くに太幅刻線の水平線が一本はいる。ごくまれに壺の胴部に彫塑・貼付文・浮き彫りなどによって動物的な顔や人の顔を表象するがのもある。

CP-Rojo Inciso (Fig.71-72, Plate 70-71)

〔色〕

赤色

〔表面調整〕

器形 2、3 の場合、器面全体が磨研される。器形 1 の場合は器面外側のみ磨研される。

器形 5 の場合は口縁部から器面内側にかけて磨研され、外側は平滑化される。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.71-1~7)。

器形 2：外傾鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.71-8~13)。

器形 3：半球形鉢 (Fig.72-1~3)。

器形 4：朝顔鉢 (Fig.72-4)。

器形 5：ボトル型土器 (Fig.72-5)。

〔装飾〕

器形 1~3 のばあい、器面外側に細幅刻線で水平線、垂線、斜線、三角形、圏点文、同心半円、格子文などを組み合わせて幾何学文様を描く。蛇をモチーフとしたものもある。細幅刻線内には、しばしば焼成後に白色顔料が充填される。器形 4 の場合、器面内側に圏点文などの文様が施される。器形 5 の場合、胴部に細幅刻線で蛇などを表象した文様が描かれる。

CP-Rojo y Blanco (Fig.73, Plate 72)

〔色〕

ほとんどの場合、口縁部及び器面内側が赤色、それ以外の部分が白色

〔表面調整〕

赤色の顔料充填されている部分は平滑化、あるいは磨研される。それ以外の部分は平滑化される。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.73-1~10)。

器形 2：器壁がやや反り返る外反鉢 (Fig.73-11~12)。

〔装飾〕

ほとんどの場合、口縁部及び器面内側に赤色顔料が充填され、それ以外の部分に白色顔料が充填される。まれに口縁部のみ帯状に赤色が塗られ、それ以外のすべての部分が白色に塗られる場合がある。

CP-Rojo Pulido (Fig.74, Plate 73-75)

〔色〕

赤色

〔表面調整〕

磨研されている。

〔器形〕

器形 1：外傾鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.74-1~4)。

器形 2：開口半球形鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.74-5~6)。

器形 3：頸部の長いボトル型土器。口縁部がやや外側に肥厚する (Fig.74-7~14)。

器形 4：注口部が鐙形のボトル型土器 (Fig.74-15~16)。

器形 5：短頸壺。頸部がわずかに外反する (Fig.74-17~18)。

〔装飾〕

器面全体に赤色スリップをかける。基本的にはその他の装飾は無いが、器形 4 の場合、注口部に塑像を貼附した動物の表象をする場合がある。

CP-Blanco sobre Rojo (Fig.75, Plate 76)

〔色〕

赤色地に白色顔料が充填されている。

〔表面調整〕

磨研されている。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.75-1~6)。

器形 2：外傾鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.75-7~10)。

器形 3：浅鉢 (Fig.75-11~13)。

器形 4：外傾鉢 (Fig.75-14)。

〔装飾〕

磨研された赤色の器面の口縁部のみ白色顔料が帯状に充填される。

CP-Rojo Inciso 88 (Fig.76, Plate 77)

〔色〕

赤色

〔表面調整〕

刻線によって磨研されている面と平滑化されている面とに分割される。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口唇部は丸みを帯びる (Fig.76-1~6)。

器形 2：外傾鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.76-7~10)。

〔装飾〕

多くの場合、器面外側を細幅刻線か太幅刻線によって平滑面と磨研面とに分け、刻線に挟まれた平滑面上に太くごく浅い刻線で文様を描く。文様には同心半円、三角形、斜線、波状文などの幾何的文様がある。刻線内には焼成後に白色の顔料が充填されることがある。また口縁部に付近には、ボタン状の貼付文がつくことがある。

CP-Marrón Pulido (Fig.77, Plate 78-79)

〔色〕

茶褐色、または暗褐色。

〔表面整形〕

よく磨研されているが、刻線によって磨研面と粗く整形されたマット面とに区分される場合もある。

〔器形〕

器形 1：注口部が鐙形のボトル型土器。口縁部がやや外側に肥厚する (Fig.77-1,4,5,6,8)

器形 2：頸部の長いボトル型土器。口縁部がやや外側に肥厚し、口唇部が外傾する (Fig.77-2,3,7)。

器形 3：開口半球形鉢。口縁部は先細りし、口唇部は丸みを帯びる (Fig.77-9~11)。

〔装飾〕

刻線によって磨研面とマット面を区分し、前者部分に円形、波形などの文様が施される場合が多い。この場合、刺突文がマット面に施されることもある。ただし器形2の場合には器面全体をよく磨研し、装飾のないものもある。このほか、器形1では刻線によってネコ科動物的な目や牙、またへびなどが表現されている土器もある。また、貼付文や、鑑部分に鳥を象形的に表現している土器もある。

3-4. ソテラ期の土器

ST-Marrón (Fig.78, Plate 80)

〔色〕

明褐色、茶褐色、または暗褐色。

〔表面調整〕

ごく軽く平滑化されるか、もしくは粗く調整されている。

〔器形〕

器形1：開口半球形鉢。口唇部は内側が傾斜するか、もしくは平坦となる(Fig.78-1~3)。

器形2：頸部が外反、あるいは内側にやや閉じる短頸壺、あるいは口径の大きい広口壺。

口縁部は外側、あるいは全体が肥厚する場合がある。注口部のつく壺もある(Fig.78-4~7)。

〔装飾〕

なし。

ST-Rojo Pintado (Fig.79-81, Plate 81-83)

〔色〕

地の色は明褐色、茶褐色、暗褐色。文様部分は赤色。

〔表面調整〕

平滑化、もしくはごく粗く平滑化される。器形の場合、器面外側に水平方向、器面内側に縦方向、縦横両方向、もしくは斜めの調整痕が観察されることが多い。

〔器形〕

器形1：短頸壺。口縁部は外側に肥厚するか外切れになる場合が多い(79-1~7, 81-2,3)。

器形2：開口半球形鉢。口唇部は平坦にやや内傾するものが目立つが、ほかにも外傾するもの、先端に向かって細くなり丸味を帯びるものなど多様である。また、口縁部がやや外反するものもある(Fig.80-1~9)。

器形3：外反鉢(Fig.80-10)。

器形4：半球形鉢(Fig.80-11)。

器形5：細口壺。口縁部は外反する(Fig.81-1)。

〔装飾〕

赤色顔料で主に幾何学的文様が描かれる。いずれの器形の場合にも、口縁部には赤色顔料が塗布される。器形2~4の場合、口縁部に刻み文様が施されたり、同じく刻みの入った紐帯文様が貼付されることがある。器形1の場合、頸部全体と胴部上部を赤く塗るものもある。

ST-Rojo Líneas Bruñidas (Fig.82, Plate 84)

〔色〕

器面の地の色は明褐色。口縁部もしくは口縁部から器面内側にかけては赤色。

〔表面調整〕

平滑化、あるいはごく粗い平滑化が施される。

〔器形〕

開口半球形鉢。口唇部が平坦になる場合が多い(Fig.82-1~3)。

〔装飾〕

口縁部のみ、もしくは口縁部から鉢の内側にかけて赤色顔料が塗布される。顔料の塗布されていない部分に、幅 1~2mm ほどでごく浅い凹線（磨線）が縦方向にひかれる。磨線は鉢の内側に施されることも外側に施されることもある。

ST-Rojo sobre Blanco (Fig.83, Plate 85)

〔色〕

器面の地の色は白色、文様は赤色。

〔表面整形〕

平滑化されている。

〔器形〕

器形 1：短頸壺。頸部が外反することが多い(Fig.83-1~10)。

器形 2：開口半球形鉢(Fig.83-11)。

器形 3：外反鉢(Fig.83-12)。

器形 4：釜形鉢。胴部中央の三方に、ひさしが付く。

〔装飾〕

器形 2,3 の場合は器面の全体、壺の場合は口縁部から外側全体に白色スリップがかけられ、その上に赤色顔料で幾何学文様が描かれる。文様が描かれるのは、鉢の内側、外側の両方の場合がある。また、鉢の口縁部や釜形鉢のひさしの部分には、刻み文様が施されることがある。器形 1 の場合、口縁部のみ赤色顔料が塗布されることが多い。

ST-Negro Líneas Bruñidas (Fig.84, Plate 86)

〔色〕

暗褐色、黒色。

〔表面調整〕

口縁部は磨研され、胴部は磨研部分と粗い平滑化された部分とに分かれる。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口縁部の先端が先細りし、内側が傾斜するものが多い。まれに口唇部が水平に平坦となるものもある(Fig.84-1~5)。

器形 2：半球形鉢(Fig.84-6)。

〔装飾〕

器面の磨研されていない部分に、幅 1~2mm ほどでごく浅い凹線（磨線）が縦方向にひ

かれる。磨線は鉢の内側に施されることも外側に施されることもある。口縁部に刻み文様が施されたり、刻みの付いた紐帯文様が貼付されることがある。また、丸い突起が貼付される場合もある。

ST-Negro Alisado (Fig.85, Plate 87)

〔色〕

暗褐色、または黒色。

〔表面調整〕

平滑化されている。器面外側には、水平方向に調整痕が観察される場合がある。

〔器形〕

器形 1：開口半球形鉢。口唇部が内傾する場合とほぼ水平に平坦となる場合がある(Fig.85-1~4)。

器形 2：口縁部が内側にやや閉じる半球形鉢。口縁部の内側が外側にやや肥厚し、口唇部が内傾する場合が多い(Fig.85-5~7)。

〔装飾〕

口縁部に刻み文様が施されたり、刻みの付いた紐帯文様が貼付されることがある。また、器面の外側に細い幅の刻線やスタンプによる円文が施される場合がある。

註

(1)SG の土器タイプ SG-Marrón Inciso は、細幅刻線によって幾何学文様が描かれる鉢形の土器で、コパ期の CP-Marrón Inciso B と非常に類似した特徴をもつ。一方、SG の土器タイプ全般において鉢形土器の口縁部の形状は外切れであるが、これは KW の土器タイプの特徴である。

(2)クントウル・ワシ期は、建築においては KW-1 と KW-2 の 2 フェイズに分けることができる（本書「クントウル・ワシ神殿の構造」参照）。しかし、SG の土器タイプが現れる時期が建築フェイズの KW-2 と完全に一致するのではない。

参考文献

井口欣也

1990 『ペルー北高地の形成期文化：クントウル・ワシ遺跡の土器分析の視点から』（修士論文：東京大学大学院総合文化研究科）

2002 「クントウル・ワシの土器タイポロジー」 加藤泰建（編著）『アンデス先史の人類学的研究：クントウル・ワシ遺跡の発掘』（平成 11～13 年度科学研究費補助金研究成果報告書），pp25-44.

Inokuchi, Kinya

1995 “La Cerámica de Kuntur Wasi.” Onuki, Yoshio (ed.) *Kuntur Wasi y Cerro Blanco : dos sitios del Formativo en el norte del Perú*, pp.23-45. Tokio: Hokusen-sha.

Onuki, Yoshio (ed.)

1995 *Kuntur Wasi y Cerro Blanco: dos sitios del Formativo en el norte del Perú*. Tokio Hokusen-sha.

Terada, Kazuo and Yoshio Onuki

1985 *The Formative Period in the Cajamarca Basin, Peru: Excavations at Huacaloma and Layzón, 1982*. Tokio: University of Tokyo Press.